

# 農地・水・環境保全だより第47号

編集・発行 三重県農地・水・環境保全向上対策協議会

## 「多面的機能支払交付金の安全研修と事務研修」の開催

令和3年度中に多面的機能支払交付金の共同活動中に発生した事故件数は本省に報告のあったものだけで令和3年10月27日時点で124件あり、令和2年度の116件、令和元年度の55件を超えています。

活動項目別で見ると、草刈り中の事故が80%を占め増加しています。事故別原因別で見ると、転倒・転落が43%で今年度は死亡事故や意識不明の重体となった事故も発生しています。草刈り中に転倒・転落をして骨折等してしまうケースや、草刈り機使用中の転倒や不注意により創傷等を負ってしまうケースが頻発しています。また、昨年度に比べ、蜂刺されや物損事故も多く見受けられます。

令和2年度の制度改正で実践活動等の際には、安全な活動に努めるものとし、研修メニューに「機械の安全使用に関する研修」を全ての活動組織に活動期間中に1回以上実施することが追加されました。

三重県農地水協議会では、「みえのつどい」で研修を実施する予定をしておりましたが、本年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け中止となりました。ただ、令和3年度に終期を迎える活動組織が多くありましたので、活動終期



を迎える活動組織を対象（伊賀農林事務所管内は全ての活動組織を対象）に新型コロナウイルス感染拡大防止対策



を施した上で、密を避けるため、各農林事務所単位で「安全研修」を「事務研修」と併せて開催しました。

研修は11月17日に四日市農林事務所管内、11月24日に伊賀農林事務所管内（名張市）、11月29日に尾鷲農林水産事務所管内、12月6日に松阪農林事務所管内、12月7、8日に伊賀農林事務所管内（伊賀市）、12月20日に津農林水産事務所管内の活動組織の方を対象に、「事業完了に向けた事務研修」、「刈り払い機作業の基本と点検方法」、「田んぼダムの取組」について協議会の説明とDVD視聴（伊賀農林事務所管内はJAIがふるさと担当者による農業機械の安全研修）を交えての研修を行いとても有意義なものとなりました。

研修は11月17日に四日市農林事務所管内、11月24日に伊賀農林事務所管内



## 活動組織の紹介

だいらほんごうみぞくみあい

### ◆ 平本郷溝組合（熊野市）

設立	平成27年3月31日
取組面積	田：516a 畑：0a
主要施設	開水路：3.1km 農道：1.6km
構成員	農業者：11人 非農業者：1人

三重県南部に位置する熊野市は、年間を通した平均気温が17℃、冬でも9℃と温暖な気候ですが、私たちが活動する飛鳥町は標高300mの山間部に位置し、冬は氷点下を記録するなど、高原の寒冷な気候となっています。また、市全体の65歳以上の人口が44%と高齢化社会が進行する熊野市において、私たちが活動する飛鳥町においては52%となり、さらに厳しい状況となっております。過疎高齢化に加え、山間部ゆえのシカやイノシシなどによる獣害被害もあり、農業を取り巻く環境は非常に厳しい状況となっております。

そのような状況下でも、集落が一体となり、農業が有する多面的機能を維持していくことは、農業及び集落を継続していく上でも大変重要な取組となっております。

#### ○水路の維持活動

清流・大又川に隣接し、水資源が豊富な当地区においても、田んぼへの水路を守っていくことは大変重要な活動となっております。毎年3回水路の草刈り、必要に応じて堰の補修を行います。



### ○獣害柵の保守管理

自然環境が豊かな山間部では、シカやイノシシなどの獣たちと隣り合わせで生活を営んでいます。そのため、農業を営む上では、獣害対策が不可欠となっています。平成26年度に自力施工により、集落一帯を網で囲みました。管理を怠るとシカやイノシシの侵入を許すことになり、耕作意欲の減退につながってしまいます。そのため、定期的に獣害柵の見回りを行い、修繕を行っています。



### ○景観形成の取組

田んぼを中心に集落が掲載されている当地区において、遊休農地化については、景観上大きな問題となります。そのため、地区の遊休農地となっている田んぼにコスモスの植栽を行いました。



### ○農地維持活動の推進について

構成員の高齢化が進む平本郷溝組合ですが、地域が一丸となった維持・修繕計画的に行っていることにより、維持管理活動が軽易に行うことができしております。これからも集落と農業を守るために、活動を継続していきたいと考えております。



## INTERVIEW

# 多面に輝く人たち

## Vol.1

県内各地でご活躍の皆様を「多面に輝く人たち」と題してスポットをあてご紹介します。  
今回は、多気町勢和地域で「おまめさんかなあプロジェクト」に取り組まれているお二人  
をご紹介します。

### おまめさんかなあプロジェクトへの思い

昔の勢和のおばあちゃんのあいさつ言葉「元気かなあ？健康かなあ？」「あんた誠実に生きてるかな？あんたやったら大丈夫。きっと誠実に生きてけるわ」と互いを思いやり、励まし合っていた言葉であったと思いを馳せ、協議会・小学校・図書館・地域の方が連携し、子どもたちとの活動に、その先人の思いや知恵を繋いでいきたいと願ったプロジェクト。

Q 「おまめさんかなあプロジェクト」はどのようなことを行っていますか？

A 「農業体験」や「日本の伝統食の知恵の授業」、「きな粉づくり」や「みそ仕込み」、6年間の集大成としてのイベントである学校給食での「勢和小定食づくり」を、子どもたちの成長とともに、自分たちも喜びを感じながら行っています。

## 森本有紀

MORIMOTO YUKI  
活動組織：事務員

「子どもたちに農業の大切さや  
ふるさとの良さを伝えたい」

地域みんなで子どもたちを  
見守りたい！

Q 「おまめさんかなあプロジェクト」のような活動を取り組むにあたってのポイントは？

A 構成団体に地域の方が入っていること、プロジェクトが授業として成立するよう検討し、スタッフの意思疎通を図ること、学校の先生方の理解と協力を得られるように取り組むことがポイントだと思います。

地域の子供たちは  
みんな我が子のようにです



## 林 千智

HAYASHI CHISATO  
多気町立勢和図書館

「子どもたちに『食と農』を  
通じ五感を育み生きる力を  
身につけたい」

心も体も  
本を読む環境が大事。

Q 子どもたちへの取組のきっかけは？

A ひとりひとりの子どもたちすべてが、元気にのびやかに育ってほしいと思ったからです。

体のことを考えた  
暮らしを伝えたい！

Q 子どもたちとどのような農業体験をしていますか？

A 米作りの場合は、事前授業の後、田植え・水の道調べ、図書館の本での学び、稲刈り、はさ掛け、脱穀、しめ縄づくり等、手足を沢山使った学習をしています。



### INFORMATION

#### 多気町勢和地域資源保全・活用協議会

農業用施設の補修や、遊休農地を活用した学校教育との連携に加え、様々な構成団体による環境保全活動、農業6次産業化、地域資源を活用したイベント等を通じ、都市と農村の交流を行うなど幅広く多面的機能交付金活動に取り組んでいます。